

折口信夫が描き出した、今にも動き出しそうな万葉びとの世界を、一緒にのぞいてみませんか。

高貴な家柄に生まれた「神の嫁」、藤原南家郎女。ずっと以前に「死者」となった大津皇子(小説では滋賀津彦)。折口信夫(1887-1953、筆名 釈道空)の代表作の一つ小説『死者の書』の中では、この二つの筋立てが幻想的に交差し、奈良の都を現実的に生きる大伴家持とともに、奈良時代に生きる名もなき人々の暮らしが生き生きと描かれています。

本展示では、『三国志』『平家物語』などで知られる人形美術家・アニメーション作家である川本喜八郎(1925-2010)が『死者の書』を映像化した際に制作された藤原南家郎女、大伴家持の人形や、折口信夫に関連した資料を展示します。

聞いて

池田弥三郎作

「憑り来る魂」

(朗読:池田光瑠)

同時開催

万葉集の
「この音なんの音」
クイズ

越中万葉
かるた体験
体験コーナー



見て

川本喜八郎人形

「藤原南家郎女」(個人蔵)

「大伴家持」(川本プロダクション蔵)

釈道空命銘茶杓

「背振」(慶應義塾大学茶道会蔵
岡野弘彦旧蔵)

折口信夫関連資料



体験して

「蓮糸に触れてみよう」

「南家郎女と一緒に
写真を撮ろう」

(衣装協力:山口千代子)

2026高岡万葉セミナー

「折口信夫と『死者の書』」

9月5日(土) 午後1時~午後4時半

講師:坂坂達雄(東京都市大学名誉教授)

鈴木雅子(高岡市美術館主任学芸員)

藤原茂樹(高岡市万葉歴史館館長)

受講料:5,000円(観覧料込)

(学生・生徒は無料/学生証をご提示ください)

川本喜八郎監督映画

『死者の書』(2005年)上映会

9月20日(日)、10月25日(日)、11月7日(土)

各日正午から午後1時10分(当館講義室・参加費無料)

※同日午後3時15分よりギャラリートークを開催
(30分程度、要観覧料)

交通のご案内

●JR・あいの風とやま鉄道 高岡駅から

【バス】高岡駅前(北口)バスのりば のりば④

加越能バス伏木方面(西回り伏木循環)、
伏木方面(東回り伏木循環)のいずれかに乗車(約30分)し、
「伏木一の宮バス停」で下車、徒歩約7分

【タクシー】約20分

※「北陸新幹線 新高岡駅」と「JR・あいの風とやま鉄道 高岡駅」の間は、バス便があります。(1時間に数便程度・所要時間約10分)

●最寄り駅・JR氷見線 伏木駅から

【当館までの距離約1.5km】徒歩約25分

●お車で

【能越自動車道】高岡北インターから約20分、
高岡インターから約25分

【北陸自動車道】小杉インターから約35分、
高岡砺波スマートインターから
約35分

開館時間 午前9時~午後6時 ※入館は閉館の45分前 11月、12月は午後5時閉館

観覧料 一般…300円、中学生以下…無料、65歳以上…240円、団体(20名以上)…240円



高岡市万葉歴史館

〒933-0116 富山県高岡市伏木一宮1-11-11 TEL:0766-44-5511 FAX:0766-44-7335
E-mail:manreki@takaoka-bunka.com URL:https://www.manreki.com

歴史館の最新情報、日々の出来事はツイッターで 家持くん @manreki おおいらつめちゃん@oiratsume